

専大スポーツ

【専大スポーツ】 <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 426

専大スポーツ
編集部
公式WEB



Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

アジアU22ボクシング選手権 男子フェザー級

原田

銀メダル



「前の手」を使って試合をコントロールする原田

1月20〜30日、ウズベキスタン・タシケントで開催されたボクシングU22アジア選手権大会の男子フェザー級(57kg級)で原田周大(法2・豊国学園高)が銀メダルを獲得した。

原田は、「初めての海外での試合で、人間的にもボクシング的にも強くなる事ができた。とても良い経験になった」と語った。

バンナム級(56kg級)で日本一に輝いた昨年の全日本選手権大会からアジア選手権大会に向けて、「海外の選手はフィジカルが強いイメージがあるので、足を使い、うまく距離を取って戦えるように練習した」と対策を練って大会に臨んだ。

得意とする前の手(相手選手に近い手)を巧みに使って試合を組み立て、準決勝を5-0で制し、決勝に進出した。決勝戦はRSC(レフェリーストップコンテスト)で敗れ、惜しくも優勝は逃したが、「得意なパンチをあてること以外は考えず、試合を楽しもうと思っていた」と今大会を振り返った。

今後の目標について「今の実力や課題、世界の壁の高さなど、さまざまなことに気づくことができた大会だった。今回学んだことを徹底的に考えて練習に励み、今胸にある悔しい気持ちを原動力に、リベンジできるように頑張ります」と力強く語った。

(高橋尚之・経営2)



男子シングルスで吉田海斗(文4・希望が丘高) Ⅱ写真Ⅱが念願のベスト16入りを果たした。16強進出は「ランク入り」とも呼ばれる。翌年の大会のシード権を手にするなど、名実ともにトッププレーヤーと肩を並べることになる。大学でプレーを終える吉田は「監督や両親をはじめ、

支えてくださった方々に恩返しすることができたい」と話した。

また、女子ダブルスで木村香純(経営4・四天王寺高)・出澤杏佳(文1・大成女子高)ペアが、加藤亜実(経営4・明徳義塾高)・船場清華(文2・明徳義塾高)ペアがともにベスト16入り。

混合ダブルスでも出澤が小林広夢選手(日大)とのペアでベスト16入りした。

(小室亜季・文1)

男子シングルス

吉田 念願のベスト16

全日本卓球選手権大会Ⅱ1月24〜30日、渋谷区・東京体育館

とを生かしたい。今大会で努力はいつか必ず報われると実感した。この経験を忘れず、今後も成長していきたい」と話した。

また、女子ダブルスで木村香純(経営4・四天王寺高)・出澤杏佳(文1・大成女子高)ペアが、加藤亜実(経営4・明徳義塾高)・船場清華(文2・明徳義塾高)ペアがともにベスト16入り。

混合ダブルスでも出澤が小林広夢選手(日大)とのペアでベスト16入りした。

(小室亜季・文1)

17回目の総合優勝



厚い信頼で結ばれた専大スピードスケート部がチームワークを発揮。男子チームパシユートで1位となったほか、個人種目でも多くの選手が入賞目を果たした。

総合優勝に大きく貢献したのがチームパシユートに制した堀川翼(経営3・白樺学園高)・谷垣優斗(経営1・白樺学園高)・菊池健太(経営1・白樺学園高)組。堀川翼

は「3人で力を合わせて滑り、優勝することができた」と喜ぶ。谷垣が「緊張で自分の力を出し切れないことが今後の課題」と大会を振り返ると、菊池は「この先もチームに貢献できるように練習を重ねていきたい」と意欲をみせた。

主将の堀川大地(経営4・白樺学園高)は、「目標を達成することができた。大会前、前嶋孝監督に『各自が普段通りの力を発揮できれば総合優勝できる』と励ましの言葉をかけてもらい、自信を持ってレースに臨めた」と恩師への感謝を述べた。

また、「1年次の菊池だ。12月末にチームに合流した。

と谷垣が長距離陣をけん引し、チームを総合優勝に大きく近づけた。これからのスピードスケート部の中核を担ってほしい」と後輩たちへの期待を語った。

(小田島美玖・文1)

スピードスケート

次のステージへ

専大での4年間を終えたスピードスケート部は、4人がBリーグに活躍の場を移した。キング開(文4・アレセイア湘南高)は横浜ビー・コルセアーズ(B1)と選手契約を結んだ。12月末にチームに合流した。

また、野崎由之(経営4・市立船橋高)が富山グラウジーズ(B1)、寺澤大夢(文4・東海大付属諏訪高)が仙台89ERS(B2)、齋藤瑠偉(経営4・羽黒高)がパストラボ山形ワイヴァンズ(B2)に特別指定選手として登録された。

また、野崎由之(経営4・市立船橋高)が富山グラウジーズ(B1)、寺澤大夢(文4・東海大付属諏訪高)が仙台89ERS(B2)、齋藤瑠偉(経営4・羽黒高)がパストラボ山形ワイヴァンズ(B2)に特別指定選手として登録された。

プロの道に挑戦

ゴルフ部・平本世中



「早くからプロの試合で活躍したいと強く思っていた」と話すゴルフ部の平本世中(経営4・厚木北高) Ⅱ写真Ⅱ。プロへの最短ルートとして4カ月をかけて行われるQ.T(クオリファイイングトーナメント)に昨年、初参戦。サードQ.Tをトップ通過するなど健闘し、12月のファイナルQ.Tに進出したが、トータル4オーバーの36位に終わった。

プロゴルファーになる方法は二つある。一つ目はプロテストに合格してライセンスを取る方法。二つ目はプロ宣言を行う方法だ。具体的には男子プロゴルフのレギュラーツアーの出場権をかけたファイナルQ.Tで上位に入ること、半年間のツアー出場権を獲得することができる。Q.Tからプロになる道を選んだ平本は「初出場ファイナルまで行けたことはとてもうれしい。しかし目標の20位以内に入らず、ツアーに何試合出られるか分からない状況になったことは悔しい」と話した。

2022年シーズンは下部ツアーを主戦場に、レギュラーツアーのシード権獲得を目指す。「シード権を獲得できるよう、自覚と責任を持って頑張りたい」と話す平本。新たな挑戦が始まる。(山縣龍人・法2)